

# 湯建工務店 新築設計・施工や改修

## ミドル企業

# まらり

これまで中小企業の事業承継は息子が中心だったが、娘が後を継ぐ「なでこ承継」が注目されてきた。創業から70年以上となる湯建工務店（東京・大田）は、2017年に就任した4代目の大関泰子社長が職場環境の改善に力を入れている。少人数でも生産性の高い組織作りを目指す。

湯建工務店は個人向けの住宅から店舗やオフィスなどの設計・施工を手がける。新築事業と改修事業が売上高の約8割を占める。住宅以外の改修も引き受けており、近隣にある寺社の金堂の改修など、地域の細かいニーズに対応してきた。

主な営業エリアは本社がある東京・大森から半

## 地域密着、住宅から寺社まで ■ 組織改革で効率化

17年に4代目社長に就任した大関氏（写真左）。湯建工務店は大田区周辺の住宅の新築事業を手がける



径2<sup>1</sup>/<sub>2</sub>キリ圏内だ。地元の顧客と密接な関係を築きながら、住まい作りを支える。住宅の注文を受け

た時は、完成するまでの仮住まいや駐車場の提供もする。引き渡し後も定期的な訪問し、点検などのアフターサービスにも余念がない。

同社は1946年の創業だ。長野県で建築業を営んでいた大関社長の祖父である湯本良雄氏が上京後に起業した。当時、大田区周辺は「江戸前海苔（のり）」の生産場があったが、都の埋め立て事業が進んで海苔が取れなくなった。困った地主から賃貸住宅の建設を次々と引き受け、会社を大きくしていった。

2代目の社長は祖母の友枝氏が継ぎ、大関社長は幼少の頃から経営者と

して働く祖母の姿を身近

で見えてきた。小学校から帰宅し、そろばんで帳簿管理をする祖母の隣で遊んでいた。「楽しそうに仕事する祖母を見て、大きくなったら専業主婦よりも働きたいなと思った」（大関社長）

大関社長は短大卒業後は商社に入社し、海外に出張して商材を探すバイヤーの仕事を担当した。仕事は楽しかったが、子供の頃に興味があつた建築の仕事への思いが捨てられず、2000年に退職。当時3代目社長だった父親の湯本良一氏に入社の希望を伝えたが、最初は反対される。2カ月ほど熱意を伝え続け、ようやく認めてくれた。

現場で実務経験を積みながら建築の勉強を始めた。職人とのコミュニケーションがうまく取れず悩んだが、経験を重ねることでできるようになった。出産後は家族の協力を得て子育てと仕事、勉強に取り組み、1級建築士の資格を取得した。

17年の社長就任後、最初に着手したのが組織改革だ。3つの事業部を設け、部ごとの目標を決めて月1回全体会議を開くようにした。縦割りで責任者を明確にし、効率的な組織をめざす。

少人数の組織では社員一人ひとりが役目を感じて動かなければ、生産性の高い仕事につながらない。大関社長は「これまではトップの指示待ちで動く組織だったが、社員自ら課題に取り組み組織にしたい」と話す。

共働きが一般化して女性の社会進出が広がり、女性社長の人数は増えてきた。東京商工リサーチによると、18年に女性社長は全国で約45万人と14年比で1.5倍となった。ただ、女性社長の比率はまだ13%にすぎない。大関社長は「自分の娘が成長した時に、もっと女性が活躍する社会にしたい」と言い、女性社長の1人として挑戦を続けていく。

（湯山美穂）

### 《会社概要》

- ▽本社 東京都大田区
- ▽事業概要 住宅や公共施設の新築、改修工事
- ▽創業 1946年
- ▽従業員 正社員約20人
- ▽売上高 約15億円(2019年7月期)